

第6回十日町市学区適正化検討委員会会議録

開催日：平成31年1月23日（水）午後7時～

会 場：川西庁舎（第1研修室）

出席委員

高橋委員長、古澤副委員長、根津委員、渡邊委員、藤巻委員、丸山委員、水落委員、鈴木委員、江口委員、南雲委員、井上委員、五十嵐委員、

欠席委員

須藤委員、田口委員、山賀委員、小野塚委員

事務局出席者

蔵品教育長、樋口子育て教育部長、長谷川教育総務課長、山岸学校教育課長、山本指導管理主事、市川教育総務課長補佐

開会 午後7時

1 開会あいさつ 高橋委員長

この会議も6回を迎え、これまで熱心に協議を重ねていただき、意見が出揃ったと思う。基本的なところを今回決定し、答申案に進めていきたいので、よろしく願います。

2 議 事

(1) 前回会議録の確認

高橋委員長・確認のうえ意見を求める。

（特に質疑なく承認された。）

(2) 答申案【たたき台】(30.12)への意見等

高橋委員長・資料の説明を求める。

・事務局により説明（長谷川課長）

高橋委員長

・この意見を基に具体的に答申案に反映したものが、本日たたき台として示されているので次で意見を求める。

(3) 「十日町市立小・中学校の望ましい学区の在り方について（答申）」【たたき台】

(31.1) について

高橋委員長・資料の説明を求める。

・事務局により説明（長谷川課長）

13-1 ページから 13-2 ページについて説明。

委員

・13-2 ページに東小学校が2中学校に分かれて進学する件について、再編に併せて検討するとなっており、再編の際に再度検討すると理解して良いか。東小が全員十日町中にいくという事ではなく、教育委員会で検討するという事か。

長谷川課長

- ・後段の中学校の再編では、エリア的な部分と人数バランスで東小から十日町中へ進学することが標記されている。

委員

- ・それならばここにもはっきりと記載した方が良いのではないか。

長谷川課長

- ・表記を修正する。

委員

・まつのやま学園は今回の計画には対象外となっているが、子どもたちの教育についてはどうなのか。新聞に載っていたが、下条小学校と下条中学校がほとんど一体化しているので、仮に下条学園という形を認めるのか認めないのか。大規模改修は必要ないと思うが検討してはどうか。

委員

- ・同じ考えで、下条は小中一体のモデルになると思っていたが、検討をしないでいいのか。

委員

- ・中学校長会での意見を紹介する。県教委は地域の特色を活かし、地域とともに歩む学校づくりを重点に掲げ、十日町市全小中学校は小中一貫教育を推進している。今年度より導入されたコミュニティスクールも同様である。先般の定例校長会で、再編案について生徒数の推移が中心の説明があった。しかし、各学校区が取り組んでいる教育活動の内容、意義、価値に関する再編議論も重要であり、検討委員会の基礎資料の充実と人的な面と教育活動の内容面を両立するさらに深い議論をお願いする。地域住民や保護者に対する説明会では、必ず教育の内容面に関する質問が出ると思う。再編議論に相応しい場を再構築して、さらに議論を進める必要があると思う。地域と学校が作り上げた小中一貫教育である。中学校の統合は小中一貫教育の統合でもある。まだ多くの議論が必要と感じる。

委員

- ・中条中学校は70周年記念事業まで終わったが、後援会組織が大きく、学校備品や修繕に対し600万円以上の金額を注ぎ込んできた経緯がある。東小学校区の大井田地区の方々も入っているので、理解を得るのは大変だと思う。それだけの熱意を持って中学校を育てるために、お金を掛けてきたという実状を教育委員会がどれだけ掴んでいるのかと思う。

高橋委員長

- ・下条小、中学校の小中一貫校という意見がでていますが、再編の検討にあたり基本的な事項として複式授業の解消と、中学校では1学年2学級が必要であることと部活動の種目や教員数の制限などがあり、それをクリアするには中学校同士の統合になると考えていた。

委員

- ・小学校は複式の解消があるが、十日町市としては、小中一貫教育を推進してきたのだから、大規模改修が伴わないのであれば、まつのやま学園のような考え方が出てくるのは当然と思う。

高橋委員長

- ・今出ている意見について、教育委員会の考えをいただきたい。

樋口部長

- ・下条学園についての考え方だと思うが、委員長が言われたように、小学校については複式の解消、中学校については複数クラス以上という基本方針の中で、今回の検討がなされていると思う。例外として既に小中一貫校であるまつのやま学園については、今回の計画から除くという取り扱いを分けた考え方だと思っている。市としては、これから小中一貫教育をさらに推進していくという考えに全く変わりはないが、新たな小中一貫校を複式が伴う中で作ることは、今回の方針から少し外れていくと思う。

委員

- ・小中一貫教育を進めるが、小中一貫校は作らないという事務局の考えなのか。素案にもそういった内容を入れ込む必要はないのか。地域に火種を残したまま絵に描いた餅にならなくするためにも、記載すべきものは記載した方が良いのではないかな。

長谷川課長

- ・最終的なたたき台の前半に、十日町市の児童生徒数の推移や学校の規模、小中一貫教育についての基本的な考え方を入れ込む予定である。

高橋委員長

- ・答申の中に、今後小中一貫についての記載を盛り込むということによろしいか。

委員

- ・これが提案として公表され地域に説明することになるが、例えば下条学園について検討されたかどうかを地域は分からない。検討された内容を最後に付記して提案する方が良いと思う。これだけ見ると数字だけの捕らえ方しかされない。

高橋委員長

- ・答申の中にこれまでの検討内容を盛り込むのは難しいと思うが、地域にはしっかり説明しなくてはならないため、その際に付記していくのも言い考えだと思う。
14 ページで小学校の同規模校の統合について、意見を求める。

長谷川課長

- ・14～15 ページについて説明する。

高橋委員長

- ・小学校の統合について、前回の意見を基に内容を変えてあるが、このまま答申案に入れてよろしいか。
(特に異議なし)

高橋委員長

- ・小学校については、今示された内容を答申に入れるものとする。中学校では、これまで討議されてきた皆さんの意見を調整した再編成である。事務局から説明を願う。

長谷川課長

- ・14-1 から 18 ページまで説明。

高橋委員長

- ・中学校では2つの案が示され、第1目標年度では同様だが第2目標年度で川西中学校の統合先が中条中学校か十日町中学校か。東小学校については、全域が十日町中学校に進学すると示されている。意見を求める。

委員

- ・目標年度については、事務局からもタイトであると言われたが、平成35年度目標はかなり難しいのではないかなと思う。まだ多くの議論の余地がある。小学校の複式解消が一段落してから始めるか。平行して進めるとしても、小学校の目標年度が3、4年後であるとさらにその3、4年後の平成38年くらいではないか。議論の期間を長く

して慎重に進めた方が良いのではないか。目標年度をもう少し延ばした方が良いのではないか。

高橋委員長

- ・目標年度について意見を求める。

委員

- ・再編は一挙に進めなくてはいけないものなのか。

長谷川課長

- ・段階的な再編も可能である。

高橋委員長

- ・小学校では、1次方針の積み残しがほとんど対象となっており、中学校でもそう簡単に進むとは思えない。子供たちの不便を考えればできるだけ早い方が良いだろう。早めに目標年度を設定して取り組むか、もう少し延ばして取り組むか、いずれにしても保護者の同意が必要になってくる。目標年度まで長くなるとなかなか進まないこともあると思う。

委員

- ・目標年度は性急に進めない方が良いと思う。その他の意見にほくほく線が良いのではないかとあるが、風等による運休の恐れがあると説明があった。風での運休率とかバスの遅れる率がどれくらいなのか。資料がないと客観的な議論ができない。

長谷川課長

- ・運休率など具体的な数字を把握していない。送迎の担当は、地域から学校まで安全に送迎することを考えると、専用バスによる送迎の時間設定の方がやり易い。ほくほく線は本数が多いが、まつだい駅から家までの市営バスに関する出発の時間を組むのが難しいと思う。また、現在の送迎がバス送迎だけであり、鉄道を使った送迎の計画が少し見えない部分がある。松代中学校から通う生徒の人数がまだ多く、バスの方が送迎し易いと考える。この先人数が減ってきて、鉄道の方が良いという時期が来るかもしれないが、バス送迎を前提とした再編先を挙げている。

委員

- ・スクールバスで学校まで送迎するとは、何台かのバスを合わせた状態で学校へ向かうのか。バスとほくほく線の費用の違いはどちらが安いのか。

長谷川課長

- ・具体的な金額の試算はしていないが、これから10年の生徒数見込みからすると、バスでの送迎の方が安くなると思う。

委員

- ・前回、信濃川の西側に松代と吉田と川西を1つに再編する意見が出たときに、鉄道の方が早くて便が良いし、バスを購入して運転手を雇用することが困難であるという話ではなかったか。

委員

- ・前回は、ほくほく線または公共交通機関としてバスを利用すべきという説明であったのに、スクールバスを運行するという話になっている。前回と矛盾するように思うがどうなっているか。

長谷川課長

- ・民間のバス路線を定期バス兼スクールバスという運行を想定している。

委員

・60人の子どもたちを路線バスに一般の人も乗せて運行するということは、バス2台を走らせる考えなのか。

長谷川課長

・そのとおりである。

委員

・前は、電車の方が、時間的に余裕があるし、近いという話があった。今回は、電車は風の影響があると言われるが、具体的に伝わってこない。もう少し具体性のある資料に基づいて話をされないとい何も言えない。

長谷川課長

・エリアが飛び地のようになることもある。

委員

・まつだい駅周辺だけでなく、遠い地域の生徒もまつだい駅まで来て、電車に乗るよりバスで真直ぐ十日町へ来るといことか。

長谷川課長

・松代地域は市営バスが運行し、まつだい駅まで来ている。小中学生は、現在その市営バスをスクールバスとして利用し、送迎をしている。バスと電車では可能性を否定するものではないが、近隣の校区からかなり離れてしまうという事もある。

委員

・それでは、川西中学校が十日町中学校に再編といことの整合性がなくなる。

高橋委員長

・ほくほく線を使うとい意見は、松代中が南中でなく十日町中へ再編となり、組み合わせが変わってくる。松代中を十日町中に再編するならば、ほくほく線を使った方が近い。松代中がどちらに再編するかで、ほくほく線かバスか違ってくる。キャパシティ的には、松代中が十日町中に再編し、その後川西中も再編が可能なのか。

長谷川課長

・十日町中、川西中、松代中では、難しい。

高橋委員長

・もし、松代中が十日町中と再編になると、十日町中と川西中の再編は無くなると思て良いか。

長谷川課長

・施設として、3校全ての受け入れは難しい。

委員

・ほくほく線かバスかとい話だが、南中から松代のエリアまで1時間かかるのかどうか。特に冬期間だとかなり時間がかかるのであれば、ほくほく線を利用できれば良いと思。国県の基準で1時間以内とあるので、通学時間はどのくらいかかるのか。

長谷川課長

・まつだい駅から南中学校については、バスで平均30分前後だと思。

委員

・中学校からまつだい駅までスクールバスを運行し、その先は市営バスを乗り継げるよう時間を合わせると理解して良いか。

長谷川課長

・現在も松代地域は、小中学校の児童、生徒を市営バスで送迎しているが、学校の時間

に合わせて運行している。

委員

- ・部活動後に30分から冬季は40分掛かることになって、時間も遅くなると理解して良いか。

委員

- ・松代地域の市営バスが時間調整できるのであれば、部活動後にほくほく線でまつだい駅に到着する時間に合わせて運行することもできるということか。

長谷川課長

- ・ほくほく線の時間を指定すれば可能である。

委員

- ・電車の本数が多いというが、4時と6時の電車と決めてその先の市営バスを運行すれば、学生は対応できると思う。本数が多いというのは考慮の必要はないと思う。

高橋委員長

- ・ほくほく線かバスかということであるが、松代中学校がどこに再編されるかで通学方法が変わると思う。南中学校と再編ならバスが便利となり、十日町中学校と再編となればほくほく線が便利となるなら、どちらかを選択すると決まると思う。

樋口部長

- ・通学方法については、事務局の資料準備が不十分であったこともあり、通学方法と通学時間について、次回に資料を用意することでいかがか。

高橋委員長

- ・次回に詳しい資料を提示いただき検討することとして、このまま進めて良いか。

樋口部長

- ・今回は最終的な話になると思うが、通学方法の議論を深めていただいてはどうか。

高橋委員長

- ・今回は、用意される資料を基に、通学方法を含めて再編先の学校を決めたいと思う。もう一つの問題として、川西中学校をどの学校と再編するのか2案が示されているので、意見を求める。

委員

- ・先ほどの松代中学校の話と重なるが、松代中学校が十日町中学校に再編すると川西中学校は十日町中学校に再編できなくなるので、中条中学校に決まってくるのではないか。松代中学校の再編先を決めれば、川西中学校の再編先が決まって議論が減り、話がまとまりやすいのではないかと思う。

高橋委員長

- ・松代中学校が、ほくほく線を使って十日町中学校へ再編するとなると、そこへ川西中学校が再編することが施設の出来ないということで良いか。

委員

- ・保護者に対し、どちらの学校に再編するかを尋ねると意見が分かれると思う。橘、上野小学校区は中条中学校を選び、千手小学校が十日町中学校に行きたいとなった場合もまとまらないと思うので、選ぶのではなく自動的に組み合わせが決まった方が良いと思う。いずれにしろ川西中学校が残るという選択肢はおそらくないと思われ、お任せする方が自然なのではないかと思う。

高橋委員長

- ・今のご意見について、案のとおり松代中学校が南中学校に再編されると、川西中学校

には選択肢が2つあるのではないか。

委員

- ・松代中学校は十日町中学校に再編し、ほくほく線を使った方が通学時間を短縮できて、生徒も通学が楽になると思う。

委員

- ・施設が新しいという再編にかかる理由が示されたが、川西中学校も新しいようなので、そちらに下条中学校や中条中学校が再編することもあるのか。

委員

- ・川西中学校は改築して新しくはなったが、キャパシティが減っている。

高橋委員長

- ・川西中学校は、教室数が6学級しかないので施設の的に不可能である。

委員

- ・関連して、川西中学校が再編して校舎が空いた場合に、上野小学校と橘小学校、何年か後に千手小学校と一緒に校舎を使うという考えを提案する。

高橋委員長

- ・川西中学校の再編先について、松代中学校の再編の結果を待つのか、今再編計画に示すのか。

委員

- ・結果を待たないと結論を今出せないのではないか。

委員

- ・松代中学校は、南中学校でも十日町中学校でもどちらにも再編できる。その先を考えると全市を南と北の2校にまとめるイメージであれば、松代中学校は十日町中学校ではなく南中学校に再編する方が理解しやすい。

委員

- ・スクールバスになると部活動が時間的に制限されることになるだろう。

長谷川課長

- ・今現在もスクールバスを運行している学校については、部活動がない生徒と部活動がある生徒の2便が通常である。

高橋委員長

- ・松代中学校の統合再編先については保留であるが、答申案のまま南中学校に再編された場合に、川西中学校は十日町中学校と中条中学校のどちらにも統合できることになるため、再編先をここで決められないか。

委員

- ・松代中学校は、ほくほく線を使って十日町中学校に通う方が早いし、部活動などを考えても利便性が高いと思う。

委員

- ・川西側から下条中条方面の路線バスがないという話で、スクールバスを運行するということがあったが、スクールバスを調達するよりも路線バスを使うとなれば、十日町中学校になる。スクールバスを用意できるなら、中条中学校でも良いことになり、それが可能かどうかで選択肢の一つとなるがいかがか。

長谷川課長

- ・いずれの場合でもスクールバスの送迎を市が行うことになる。路線バスのルートが目的の学校までになっていないため、川西地域については鉄道もないことから、スクー

ルバス送迎となる。

高橋委員長

- ・松代中学校の統合再編先について、ほくほく線とスクールバスの比較できる資料を事務局で用意するとのことだが、もしここで結論が出せるようならそう願いたい。他の皆さんの意見を求める。

委員

- ・事務局から資料を提示するという事なので、それを見ないと結論は出ないと思う。それより日程についての意見があったので、日程について議論してはどうか。

高橋委員長

- ・最初に話したように、答申案を決定していかないと日程的に厳しくなる。事務局はどう考えるか。

長谷川課長

- ・中学校の再編という新しいことを皆さんのご意見をいただきながら進めてきたが、さらに資料を用意しないと進まないということで、もう2回必要であれば日程を組ませてもらう。

高橋委員長

- ・中学校の再編計画については、次回資料を提示されてから皆さんの意見を伺うことにする。次に、目標年度について、答申案のままでもいいか意見を求める。

委員

- ・このまま進めた場合どういうリスクがあって、2年延ばすことでどういう利点があるのか。

委員

- ・先ほど申し上げたとおり議論が尽くされていないと思う。特に内容面について、再編計画でもこれだけ議論が沸くので、内容面ではもっとだと思ふ。平成35年に統合再編が完了するとは考え難い。小学校の再編が何とかなった次に中学校というのが一つの考え方だと思ふ。今のような議論がどんどん沸いてくるのが予想されるので、平成38年と言ったが平成40年も有り得ると思ふ。目標を先に延ばして年月を経ただけではなく、じっくり話し合うということである。

委員

- ・小学校は第1次方針の積み残しがある中で、小学校を先に再編を進めた方が良く思ふ。

古澤副委員長

- ・小学校で統合を経験し、その後中学校でも統合を経験する子どもが出てくると思ふ。そうなった子どもたちの心情を考えると、ある程度の時間を置いて中学校の統合を進めていった方が良く思ふ。

委員

- ・平成35年というのは、何年後には生徒数が少なくなって学級数が減るなどの根拠があつてのことではないのか。

長谷川課長

- ・この方針の10年間では、中学校が複式学級にはならない。

高橋委員長

- ・再編が延びれば、その間の教育環境が良くなるということである。

委員

- ・地域に説明する際にどうかを考えて欲しい。

高橋委員長

- ・小学校は、平成 34 年度で再編を進めて良いと思うが、中学校については目標年度を延ばすという意見が多いようだがいかがか。

委員

- ・地域説明が一番大事であって、平成 31 年 32 年の間で 33 年の 9 月に自治組織からの回答となるが、実際は小学校もあるので時期が重なっている。果たして 2 年で結論を出すまで議論が進むのかという考えがある。毎月人を集めることも出来ないだろうし、1、2 回の協議で結論が出るわけがない。最初の地域への説明等の期間がもう少し必要だと思う。また、平成 40 年度になると新たな問題が出てくるだろうから、あまり先にしてもどうかと思う。どれだけ地域にしっかりと入れるかが、大きな問題であると思う。

高橋委員長

- ・目標年度は目標年度で、第 1 次の方針でも目標年度はあったが、現在も積み残しになっている。いかに地域の人達に了解を得るかが、一番の問題になると思う。先に延ばし過ぎててもどうかという意見もあるので、何年か先に延ばして平成 38 年度ではどうか。

樋口部長

- ・目標年度の考え方については、教育委員会として出来るだけ早く改善するために、事務局がこの日程でがんばれというものであると思っていた。先に延ばせば時間をいただけることになる。地域の皆さんからすると、目標よりも早く再編するのかという反応も考えられるので、早く進めることは難しくなるのではないかと思う。

高橋委員長

- ・期間が長いから地域に理解を得られるか、短いからどうかというのも分からないが、目標年度という考え方からすると必ずそうなるとは考えられないものだと思う。教育委員会が平成 35 年度を目標にがんばるといふならそれでも良いと思う。

委員

- ・あまり先に延ばすと要旨に謳ってあることが活きない。10 年という先の話になり、答申案を今出す意味がなくなってしまう。

委員

- ・教育委員会の方がこの目標で案を示すなら、計画的に不可能なものではないと思う。自分の子どもが再編の時期に学校に居て欲しくないかも知れないが、再編後の大勢になった中学校には通わせたいと思うのではないか。良い環境で育つ機会が遅くなるのであれば、先に延ばす必要はないと思う。保護者も 3 年経つと中学校の保護者ではなくなり、別の保護者に代わる。小学校 3、4 年生の保護者に話をしていけば良いのではないか。

委員

- ・教育委員会の樋口部長から自分たちを叱咤しながら目標に向かってしっかりとやるという言葉をいただいているので、責任のある発言だと思う。この答申案で良いのではないか。

高橋委員長

- ・目標年度は、平成 35 年度のままで取り組んでいくということによろしいか。

委員

- ・要望ですが、是非議論を尽くして欲しい。再編先だけではなく、この検討委員会が解散した後も、十日町市の将来の大きな姿を目標としてじっくりと検討して欲しい。

高橋委員長

- ・目標年度は、平成 35 年度のままで取り組んでいくということにさせていただく。

(4) その他

特になし

高橋委員長・本日の議事を終了する。

3 その他

- ・事務局により説明（市川課長補佐）
- ・第 7 回会議について、2 月 13 日に開催したい。追って通知する。

4 閉 会

古澤副委員長あいさつ

- ・お疲れ様でした。私たちに残された時間もあと 2 ヶ月余りという中で、最終答申が近づけば近づくほど将来を見据え、地域のこと考えながらのご意見を今回は心が苦しくなるような感じで聞いていました。次回の日時も決まり、できれば全員参加をお願いして終わりたいと思います。

午後 8 時 58 分 終了